

目指すは 自然の恵みを活かし・気遣う暮らし

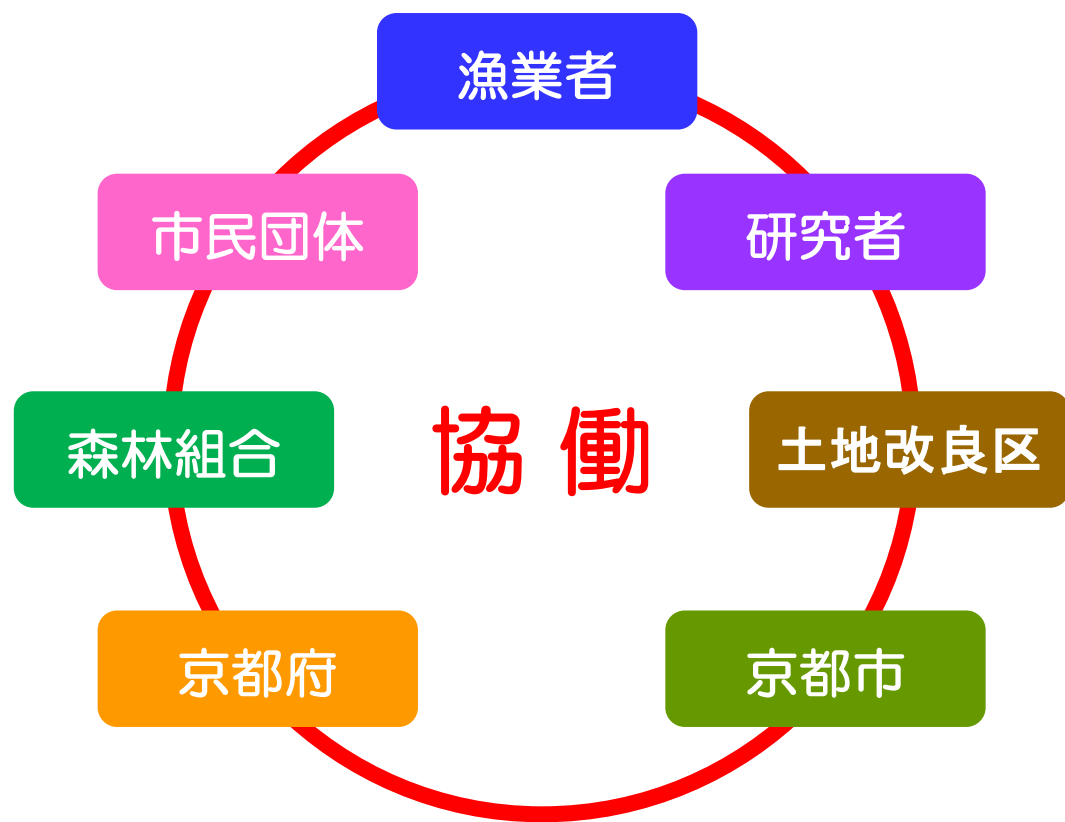


京の川の恵みを活かす会

1. 京の川の恵みを活かす会（略省：活かす会）

天然アユなどが息づく自然を取り戻し、**自然の恵みを活かしていくこと**を目的に「活かす会」を設立。

設 立：平成23年5月17日設立



京の食文化を支えてきた天然のアユ、サツキマス、ウナギ、オイカワ、ヨシノボリ、モクズガニ、カワノリなどが生息・育成・繁殖できる環境づくりに取り組み、これら活動を通じて「自然を直す技術」を学び、「自然の恵みを活かす生き方」を考える。

活動場所 淀川水系 鴨川

- ・ 活動場所は、京都市を流れる**淀川水系**の鴨川。
- ・ **祇園**など**京都の中心部**を流れる川で、生活用水や灌漑用水として古くから京都のまちの人々の暮らしを支えてきた。
- ・ また、古くから**神聖な川**として神事が行われたり、**夏の風物誌**である**納涼床**があるなど、今もなお、地域住民や観光客など多くの人々に親しまれ、賑わっている。

淀川水系鴨川



大きな問題～その１～ 数多くの堰堤による魚の移動阻害

-
- 賀茂川
- 北大路通より下流だけで34カ所の堰
- 2km
- 橋・鉄橋等構造物
堰堤
飛び石
- 賀茂川
- 鴨川
- 龍門堰
- 京都外環状線
- 名神高速道路
- 国道202号
- 今井堰
- 国道1号 幸油小路通り
- 近鉄京都線
- 国道201号
- 国道24号
- 九条通
- JR奈良線
- 東海道本線
- 堀小路通
- 七条通
- 正面通
- 五条通
- 松原通
- 四条通
- 三条通
- 御池通
- 二条通
- 疏水流入口
- 丸太町通
- 荒神口通
- 今出川
- 御
- 23
- 31
- 30
- 32
- 33
- 34
- 北大路通

大きな問題～その2～

川の単調化 「瀬・淵の喪失」による生物多様性の劣化

- 堰が多く、直線化している鴨川においても、河道には自然に砂が堆積し、砂州が形成され、瀬や淵ができる。
- 変化に富む河川環境には、水生昆虫やそれを餌とする魚介類など多様な生き物が暮らす。
- しかし、治水のために砂州の除去が行われたり、商業地域の住民から水生昆虫（トビケラ，ユスリカ，ブユなど）に対する苦情が寄せられ、定期的に河床整正が行われる結果、河川環境が単調化した。



単調な
川の形態が
連続する！

大きな問題～その3～

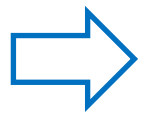
鴨川の生物環境を守ってきた漁協の経営悪化

- ・ 川の恵みを利用する漁協は、これまで川の汚染や濁水などの問題について、**日常的に監視**し、声をあげ、川の生き物を守ってきた。
- ・ しかし、①河川環境の変化に伴う**漁業生産量の低下**、②**遊漁者の減少**によって経営が悪化している。
- ・ 現在、増殖義務として行っている放流事業の継続が**経済的に困難**になってきており、増殖に対する方向性の転換が求められている。



活かす会の活動方針

- ① 天然アユなどの多くの生き物たちの生息環境を保全し、自然の恵みとして利活用できるようにする



魚道づくり

棲みかづくり

放流に頼らず
天然資源をふやそう！

- ② 子どもたちや流域住民の方に地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、自然環境を気遣う暮らしの啓発を進める

- ③ 水産の多面的機能を発揮させることによって、「自然の恵みを活かす生き方」を発信する



ネットワークづくり

啓発普及資材づくり

簡易魚道づくり

- ・ これまで製作した簡易魚道の方式は、6つ。
- ・ 河川管理者の許可を得て、自分たちで製作・設置。
- ・ 水産多面的発揮対策では、地域特認活動として実施。
- ・ 簡易魚道のデザインのポイントは、3つ。

① 手づくりできるか？

② 増水に耐えるか？

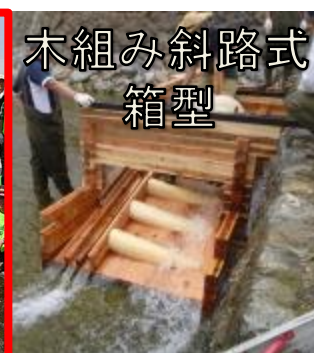
③ アユがつかうか？

構造物の躯体に
アンカーボルト
は打ち込まない



- ・ 増水に耐えるか ・ ・ 簡易魚道は全ての流量に対応できない。

⇒ アユの遡上が多い「平水時よりやや流量が多い」時に設置！！



土嚢づみ魚道のつくり方

【設置場所と魚道の考え方】

- ・ 段差が90cmある落差工。岸際で遡上アユを確認するが、成功率が極めて少ない。
- ・ 岸際に土嚢を積むことで、流れの勾配を緩くする。また、中段に水面をつくることによって、遡上しやすくする。

【材 料】

袋型根固め工法用の袋材（ネット袋），
石（自然石？）， チェーン

【製作・設置】

- ・ ネット袋に石を入れる。チェーンを結索し、落差工上部に既設された
- ・ 落差工上部に既設されたアンカーボルトに取り付けたチェーンを、ネット袋に結索し、固定する。⇒袋の流出防止



木組み階段式箱型魚道のつくり方

【設置場所と魚道の考え方】

- ・ 段差が約120cmある落差工。流れが剥離し、アユが遡上できない。
- ・ 魚道入口を、落差直下際に横向き配置させ、堰直下で行き詰まって右往左往するアユを魚道からの流れによって誘い込む。
- ・ 上部に蓋を設けて、増水時に魚道側壁へあたる水の抵抗を逃がし、損壊を防止。

【材 料】

杉角材(8cm×8cm)

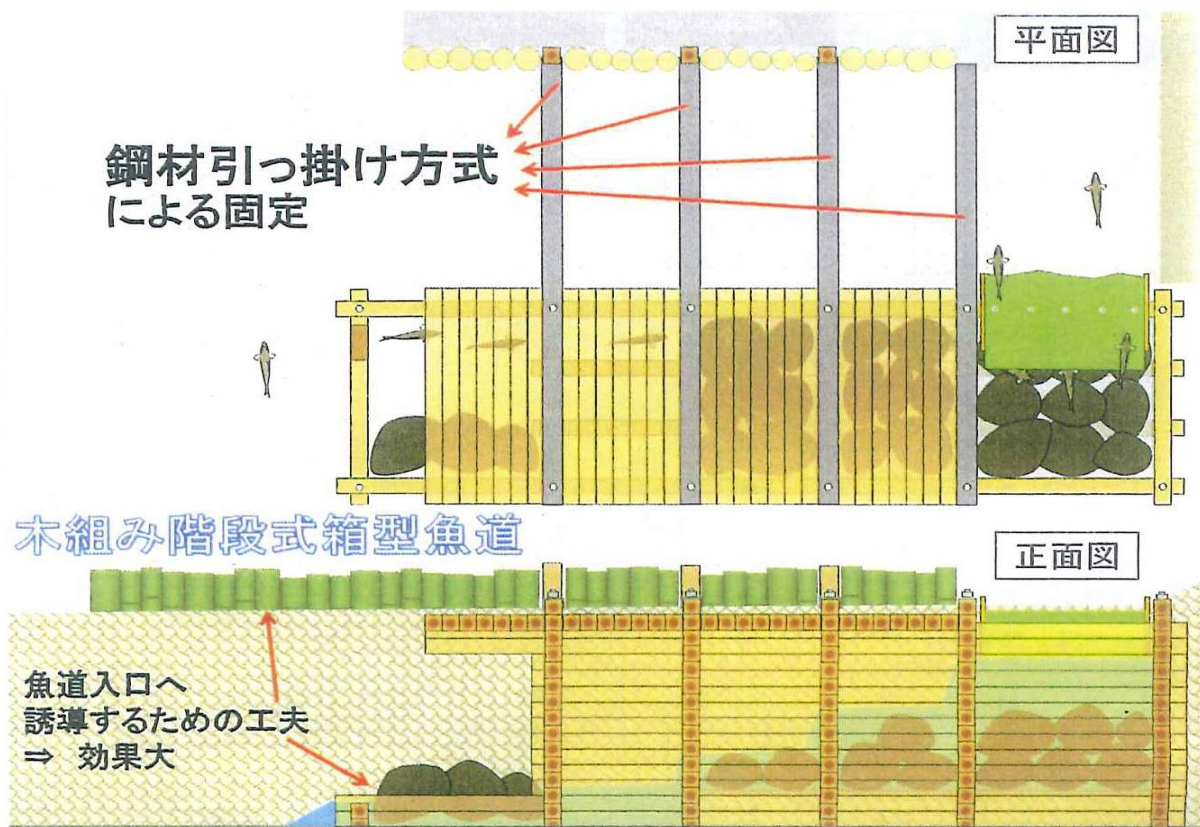
Ｌ字状溝型鋼

木製くさび

長ネジ

自然石・土嚢

竹（止水柵用）など



木組み階段式箱型魚道の設置法

- ① 堰の天端に竹の柵を設置し、流れを緩やかにする。
- ② 木を組み、箱をつくる。内部は、角材での堰上げにより、プールを設け、4段の階段をつくる。木の組み方は、角材1本1本を直交させる「渡りあご」という工法を用いて、頑丈にする。
- ③ 木箱内部の各プールに土嚢や自然石を積み、その重量で安定させる。
- ④ L字状の溝型鋼を落差工本体へ引っ掛け、くさびで固定し、「②」の木箱に取り付け、蓋を設けて完成！



木組み斜路式魚道のつくり方

【設置場所と魚道の考え方】

- ・ 上段60cm、下段90cmの二段の落差工。下段の流れが特に剥離し、アユが遡上できない。
- ・ 落差工の構造上、鋼材を引っ掛けて魚道を固定することができないため、吊り下げ方式で固定。
- ・ 三条大橋直下で、観光客が多く、アユが懸命に遡上する姿を見てもらいたい。⇒箱型でなく、魅せる魚道づくり

【材 料】

コンパネ（緑色塗装）

丸太（斜め切り）

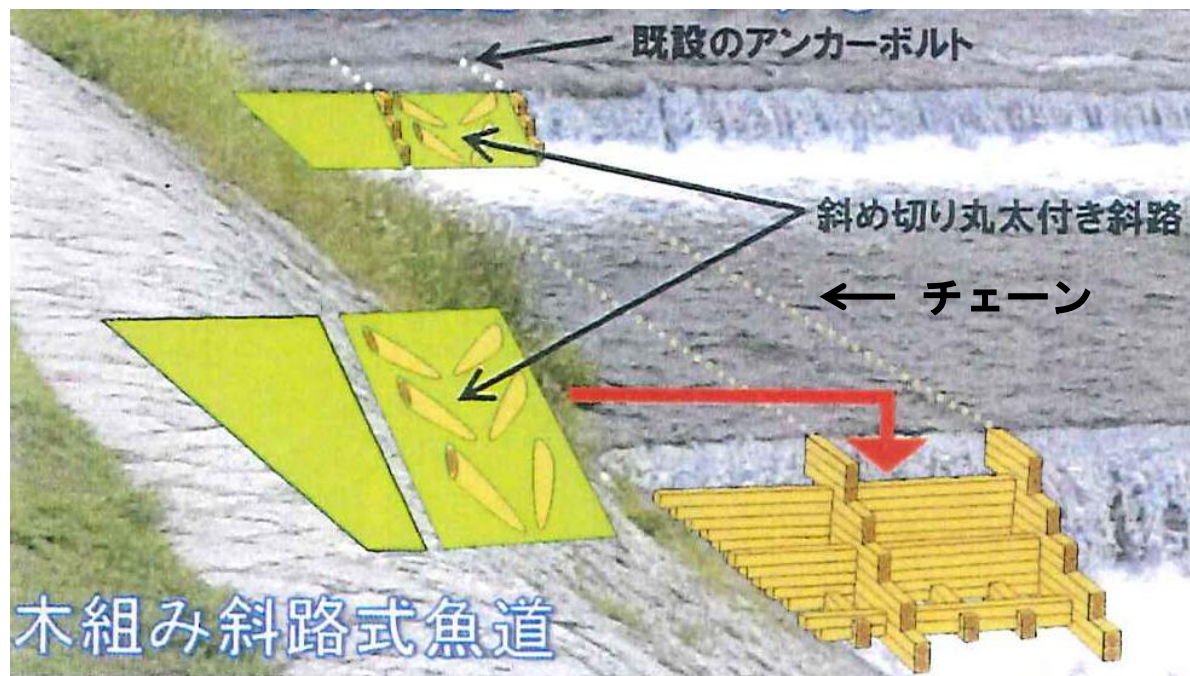
杉角材（8cm×8cm）

チェーン

金具（アット、ネジ シャックル、
タンバックル）

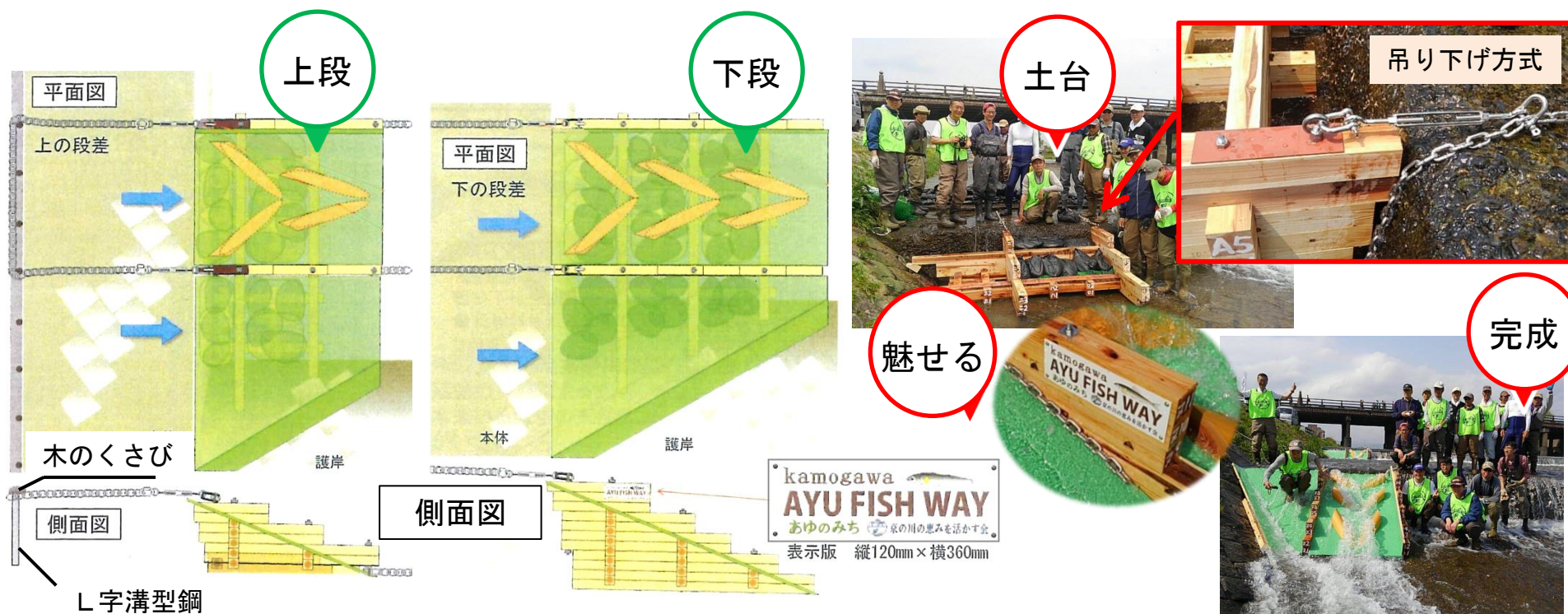
長ネジ

自然石・土嚢など



三条の落差工に設置した斜路式魚道の製作・設置法

- ①事前にコンパネと丸太で「斜め切り丸太付き斜路」を製作
- ②角材を「渡りあご」工法で組み、土台をつくる。
- ③上段の堰天端の既設アンカーボルトにチェーンを結索し、上段の土台を固定。
- ④上段の土台にチェーンを結索し、下段の土台を固定。
- ⑤土台に土嚢や自然石を積み、その重量で安定させる。
- ⑥事前に製作した斜路を土台に取り付け、啓発用の看板を付け、完成！



魚道づくりの成果 ～アユの遡上実績～

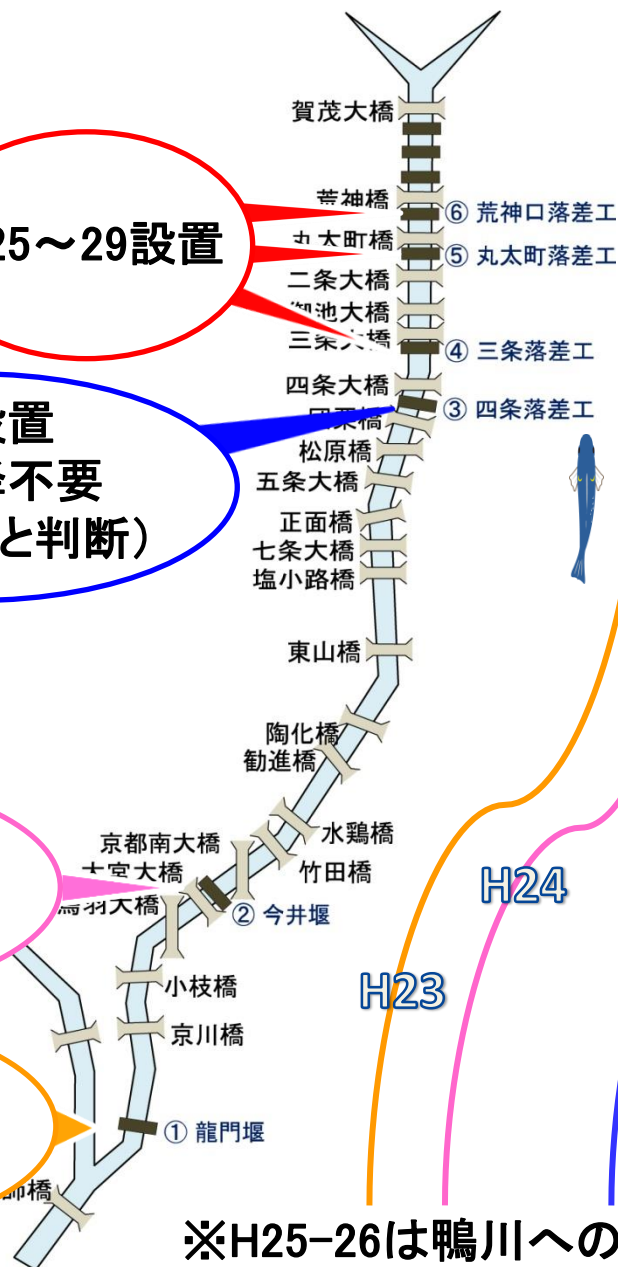


H25～29設置

H25設置
H26以降不要
(魚道不要と判断)

H24～26設置
H26以降不要
(土砂堆積で不要)

H23～25設置
H26以降不要
(堰堤上部撤去)



H28～

遡上範囲が
拡大した！

H27

H24

H23

※H25-26は鴨川への遡上がほとんどなかった



ネットワークづくり

- ・ 淀川水系「鴨川」の恵みを保全するには、鴨川だけでなく、淀川流域が一体となって、自然環境を気遣い・築く暮らしを実現していく必要がある。
- ・ 広範にわたる流域住民の意識を啓発するには、様々な自治体、国の行政機関、市民団体などを巻き込んだネットワークづくりが極めて重要。
- ・ われわれが取り組むネットワークづくりのポイントは・・・

淀川水系の生き物などの現状や活かす会の取組内容
とにかく知ってもらおうこと！

パンフレットの
作成・配付

フォーラム
開催・参加

Web
発信

マスメディア
対応



発信

こうした活動を行える多様な体制づくり

フォーラムの開催

第5回川の恵みを活かすフォーラム ～川魚文化の再興に向けて～



大阪湾から淀川を遡上し、京都の川を目指す天然海産アユ(H27.4.26)



落差の手前で上流へ行けず滞留し、スズキに追い上げられるオイカワの群れと天然海産アユ(H27.5.16)



鴨川下流域で捕獲することができたサツキマス38cm昨年秋に、鴨川上流域から大阪湾へ下ったアマゴが翌年春に、大きく成長した姿で、再び鴨川に上ってきたとされる。(H27.5.24鴨川大宮大橋下)



木組み階段式魚道の設置(H27.5.23)



淀川三川の流下仔アユ調査により約10mmの個体を採捕(H26.11.16木津川)



約10cmの魚影が通過(H27.7.15)

第一部 淀川アユの見聞

～淀川水系の天然海産アユを増やすために～

日時 平成27年10月3日(土)

10:00～13:00 第二部 13:20～16:30(裏面参照)

場所 京都大学防災研究所
宇治川オープンラボラトリー 新館セミナー室

京都府伏見区橋大路西三橋東ノ口
<http://cfcd.dpri.kyoto-u.ac.jp/openlab/acces.html>

内容 講演：川魚文化の再興に向けて

- 藤掛 進 (一般社団法人日本食育者協会代表理事/京都大学大学院おぼんざい研究学会代表)
- 淀川水系の天然海産アユを増やすための課題と今後の対策
- 谷口 順彦 (東北大学・高知大学名誉教授/淀川河川レンジャー/京の川の恵みを活かす会副代表)
- 近代日本のアユの漁撈と流通について
- 東 昇 (京都府立大学文学部准教授)

報告：淀川からの研究報告(大阪府立環境農林水産総合研究所水生物センター)

- 芥川からの活動報告(芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク)
- 桂川からの活動報告(淀川川漁業協同組合、桂川流域ネットワーク)
- 木津川からの活動報告(木津川漁業協同組合、淀川河川レンジャー)
- 鴨川からの活動報告(賀茂川漁業協同組合、京淀川漁業協同組合、京都市、京都市)

まとめ：竹門 康弘(京都大学防災研究所准教授/京の川の恵みを活かす会代表)

討論：淀川水系の天然海産アユを増やすために ～われわれにできること～

講評：岩田 明久(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授/京の川の恵みを活かす会会員)

(裏面へ)

第1回シンポジウム 桂川流域「鮎」の見聞 ～桂川や鴨川のこれまでとこれから～ 平成23年10月16日(土) 樟大記念館
第2回淀川流域「鮎」の見聞 ～淀川水系の天然海産アユを増やすために～ 平成25年9月22日(日) 京都府環境農林水産総合研究所宇治川オープンラボラトリー
第3回フォーラム 淀川流域「天然アユ」の見聞 平成25年9月22日(日) 京都府環境農林水産総合研究所宇治川オープンラボラトリー
第4回川の恵みを活かすフォーラム 淀川水系の天然海産アユを増やすために～ 平成27年10月3日(土) 京都大学防災研究所新館セミナー室(宇治川オープンラボラトリー)

第7回川の恵みを活かすフォーラム

第1日目 報告会

日時 平成29年10月14日(土)
13:00～17:30

場所 京都大学防災研究所
宇治川オープンラボラトリー
新館セミナー室
京都府伏見区橋大路西三橋東ノ口
<http://cfcd.dpri.kyoto-u.ac.jp/openlab/acces.html>

※ 第2日目 食味会、申込みは裏面

kamogawa
AYU FISH WAY
あゆのみち 京の川の恵みを活かす

丸太町落差工に設置した
木組み階段式箱型魚道を遡上する天然アユ
H29.7.16(日)

川の恵みを活かす報告会「川を元気に」

■挨拶 (13:00～13:10)

京の川の恵みを活かす会 代表 竹門 康弘

■講演 (13:10～14:10)

川を耕して28年 ～アユの産卵場造成～ 新村 安雄(フォトエコロジスト)

■報告 (14:10～16:10)

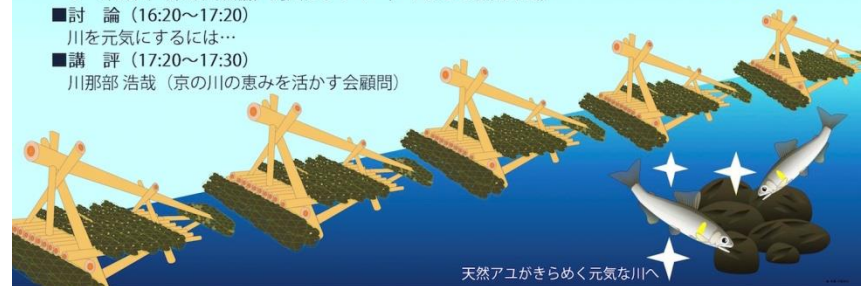
- 1 淀川大堰・毛馬水門(淀川河川事務所)
- 2 芥川(芥川倶楽部)
- 3 鴨川今井堰(京の川の恵みを活かす会、京淀川漁協)
- 4 鴨川中下流(京の川の恵みを活かす会)
- 5 鴨川上流(京の川の恵みを活かす会、賀茂川漁協)
- 6 桂川(京の川の恵みを活かす会、保津川漁協、桂川流域ネットワーク)
- 7 木津川(木津川漁協、河川レンジャー、やましろ里山の会)

■討論 (16:20～17:20)

川を元気にするには…

■講評 (17:20～17:30)

川那部 浩哉(京の川の恵みを活かす会顧問)



天然アユがきらめく元気な川へ

京の川の恵みを活かす会

top

活かす会とは

活動報告

活動計画

参加方法

お知らせ

京の川の恵みを活かす会
連絡先

〒611-0011
宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所
水資源環境研究センター
竹門研究室
TEL : 0774-38-4253
FAX : 0774-38-4036
E-Mail : ikasukai.all@gmail.com

FAXをされる場合は、
京都大学防災研究所
水資源環境研究センター
竹門 敬付
京の川の恵みを活かす会事務局宛

と明記していただくよう
お願いいたします



京の川の恵みを活かす会について

京の川の恵みを活かす会は、鴨川流域の自然の恵みを豊かにし、これを活かしていくことに賛同する関係団体・個人で構成された連携組織（ネットワーク）です。
大阪湾から鴨川の上流まで天然アユがのぼれる流域環境を目指して、魚道の設置や調査、勉強会などを行っています。

**** 新着情報 **** (2017年12月3日更新)

木津川に中聖牛が設置されました！

2017年12月2日、木津川に中聖牛3基の設置が完了しました。玉水橋下流の右岸国道24号線の堤防上から斜路を下っていくと中聖牛の設置場所へ行くことができます。
竹延龍や中聖牛の製作監理委員会に出席できなかった方も、一度見に行ってください。
来年の出水期にまわりの砂州地形がどう変わるかが見ものです。



毎日新聞(2016.6.20)

1月2

京都新聞(2017.1.9)



「京の川の恵みを活かす会」は京都市民、漁協、行政などなるネットワーク。代表は竹門康弘さん(左)。京都防災研究所に所属する河川生態の研究者だ。会が設立された二〇一一年、鴨川に天然アユを遡上させる「仮設魚道」を設置する。このように見ると、桂川との合流点の上流には落差の大きな龍門堰があった。
会のメンバーは板、竹、土藁袋など自然素材を組み合わせた堰の間の魚道を造る。その年、約二万匹のAyuが遡上して、四、五条件近でも天然アユが確認された。
二年後、台風で堰は流木で壊れた。伝統工法を現代に

川に生きる 新村安雄



完成した水制を囲む市民と原小組の社員

して、ゴリやオイカワも増やしてゆかねば。川の自然を取り戻す活動は続く。
増やす以上に熱心なのは、生き物をおいしく食べる。秋に開催する川の恵みを活かすフォーラムでは活動報告会にあわせて「食味体験会」が開かれる。川の幸は「コメ、ナス、トマト」など、伏見の酒もアユの味。比ば、参加者が自分で選んだ各地のAyuを、好きなだけ炭火で焼いて味わう。独創的な取り組みがある。コンクリートが使われていなかった時代、川では竹を編んだ円筒の竹籠や、木製の水制(聖牛)といわれを抑制する道具を使った工事が行われていた。竹門さん、その伝統的河川工法を現代の川にのみがえらせようとしている。自然素材の工作物が生き物のよい場所となることを実際に示すというのだ。指導を仰いだのは、静岡県島田市の原小組三代目、原廣太郎社長。伝統工法を継承し、施工実績のある技能士を率いる。
(魚類生態写真家)

東京新聞(2017.11.26)

ネットワークづくりの成果

【設立当初】

業種	内容
漁業者	・ 京都府 1団体
市民団体	・ 京都府 3団体 (ネットワークを含む)
研究者 (学生含む)	・ 京都大学
森林組合	・ 京都市 1団体
土地改良区	・ 京都府 1団体
行政団体	・ 京都府、京都市
民間団体	・ 京都水族館

【現在】

業種	内容
漁業者	・ 京都府 3団体 ・ 大阪府 1団体
市民団体	・ 京都府 7団体 ・ 大阪府 3団体 (ネットワークを含む)
研究者 (学生含む)	・ 京都大学 ・ 龍谷大学 ・ 摂南大学 ・ 大阪商業大学
森林組合	・ 京都市 2団体
土地改良区	・ 京都府 1団体
自治体	・ 京都府、京都市 ・ 大阪府、高槻市 ・ 淀川河川事務所
民間団体	・ 京都水族館

これまで民間団体には資金や労働力の提供等のお願いをしてきたが、未だ連繫ができていない。

河川環境改善の方針

- ・ 連続性以外の河川環境の改善が必要
- ・ アユ以外の川の恵みも対象にする必要がある
- ・ 回遊性動物にとって河口域・沿岸域の環境改善が必要

川の恵みの利活用の課題

- ・ 実際に川で捕れた生き物の利用するための仕掛け
- ・ 美味しさを追求したり，知ってもらう機会が少ない

川の自然を気遣う暮らしを啓発する課題

- ・ 川の自然の価値に気づいていない人が多い
- ・ 生き物が増えた場合の覚悟をしてもらう必要がある

組織としての課題

- ・ 流域連繋の必要性（木津川・宇治川・桂川・淀川・大阪湾）
- ・ 民間団体との連繋ができていない
- ・ 行政による助成資金は継続性が保証できない

河川環境改善の方針

- ・ アユの流下仔魚調査→大阪湾沿岸団体と連繋して改善へ
- ・ オイカワやゴリの生息繁殖状況調査→課題抽出
- ・ 竹蛇籠・聖牛などの伝統工法の普及→河床の生息場改善

川の恵みの利活用の課題

- ・ 川魚文化再生プロジェクトとの連繋
- ・ 食味会等の活動継続

川の自然を気遣う暮らしを啓発する課題

- ・ 市街地の飲食店街との連繋
- ・ 教育団体との連繋

組織としての課題

- ・ 流域連繋の実現（木津川・宇治川・桂川・淀川・大阪湾）
- ・ 民間団体との連繋
- ・ 資金源の確保

ご静聴ありがとうございました



京の川の恵みを活かす会